

2019(令和元)年度 北海道園芸研究談話会 研究発表会プログラム

2019(令和元)年12月1日 於 北海道大学 農学部校舎  
午前の部

開始時間	第一会場(3階, S31講義室)	第二会場(2階, S21講義室)
	<b>果樹</b> 座長 池永充伸(道総研中央農試)	<b>果菜類</b> 座長 大道雅之(拓大道短大)
9:30	1.ブドウ苗木の生育に及ぼすナノバブル施与と光波長変換フィルム処理の影響 ○水野良祐1・実山 豊1・庄司 淳2・長谷川靖哉2・鈴木 卓1(1.北大院農、2.北大院工)	10.上川中部における養液栽培の導入と課題 ○樋口裕二1・田下浩二1・中村勇稀2(1.上川農改、2.ホクレン旭川)
9:45	2.醸造用ブドウにおける脱順化機構解明の試み ○平野夏輝・春日 純(帯畜大)	11.トマトの低段取り栽培技術が及ぼす収量・品質への影響 ○松裏巧輝・大塚悠生・石田康幸(岩見沢農業高)
10:00	3.アロニア果実の着色と関連した抗酸化性および関連成分の推移とその年次変動 ○長田亜梨沙1・井上壽哉2・中村秀夫3・実山 豊1・鈴木 卓1(1.北大院農、2.ホクサン(株)、3.北教大函館)	12.加工用トマトの収量に及ぼすポット底面給水処理の影響 ○実山 豊1・大橋優二2・井出涼介1・原 涼1・鈴木 卓1(1.北大院農、2.道総研中央農試)
	<b>葉茎菜類</b> 座長 柳田大介(道総研花野菜技セ)	<b>果菜類</b> 座長 木村文彦(道総研花野菜技セ)
10:15	4.ベビーリーフの収量・品質に及ぼす塩処理の影響 ○高濱雅幹1,2・Silvana Nicola3・鈴木 卓4・荒木 肇5(1.北大院環境、2.道総研道南農試、3.トリノ大、4.北大院農、5.北大北方生物圏セ)	13.水田転換畑での過湿が加工用トマトの収量および品質に及ぼす影響 ○井出涼介・実山 豊・原 涼・鈴木 卓(北大院農)
10:30	5.道北地域におけるパイプハウスの無加温周年利用に向けた葉菜類の早春作型 ○地子 立・岡元英樹(道総研上川農試)	14.夏秋どりトマトのパイプハウスにおける変温管理と炭酸ガス施用の試み ○古山真一1・菅原章人2(1.道総研上川農試、2.道総研原環セ駐在)
10:45	6.シュンギク栽培ハウスにおける低濃度エタノール土壌還元消毒の現地実証事例 竹永遼一(石狩農改石狩北部)	15.パプリカ土耕栽培における1番果着果節位が収量に及ぼす影響 ○野上宣祐・大道雅之(拓大道短大)
	<b>葉茎菜類・その他</b> 座長 志村華子(北大院農)	<b>アブラナ科野菜</b> 座長 高田和明(十勝農改十勝東部)
11:00	7.ハウス立茎アスパラガスの栽培環境測定への取り組み 若杉行盛(檜山農改)	16.ブロッコリー直播栽培の可能性とその問題点 ○菅原魁人1・中住晴彦1・若杉行盛2(1.道総研道南農試、2.檜山農改)
11:15	8.数種野菜における自然栽培と慣行栽培の収穫物特性の比較 ○四倉直弥・実山 豊・鈴木 卓(北大院農)	17.ブロッコリー品種の花蕾肥大に関する考察 ○柳田大介1・古山真一2(1.道総研花野菜技セ、2.道総研上川農試)
11:30	9.単管パイプを利用して農業者が建設できる園芸パイプハウス ○菅原章人1・高橋幸広2・吉越 恒3・平尾正昭4(1.道総研原環セ駐在、2.原子力環境セ、3.農研機構西日本農研、4.(有)アグリハウス)	18.深川市における『出雲おろち大根』『スサノオ』の栽培可能性 ○坪谷文花・大道雅之(拓大道短大)

11:45~13:15 昼休み

注) ○印は演者を示します。発表時間は1課題当たり15分(発表12分、質疑3分)です。

発表開始後、10分で1鈴、12分で2鈴、15分で3鈴を鳴らしますので、演者は参考にして下さい。

演者の許可なく講演内容のカメラ・ビデオ等による撮影は禁止します。

※演者の方は、一つ前の発表が始まる前までに、各講演会場前方のPC係に発表スライドの入ったCD-ROMを提出ください

※会報原稿作成時の課題番号は、上記プログラムに記載した通り番号をお使いください

※第二会場(S21講義室)前の総合受付にて年会費の納入が出来ます。ご活用ください

午後の部

開始時間	第一会場(3階, S31講義室)	第二会場(2階, S21講義室)
	<b>サツマイモ</b> 座長 高濱雅幹(道総研道南農試)	<b>露地野菜</b> 座長 実山 豊(北大院農)
13:15	19.深川市におけるサツマイモ品種の塊根肥大特性 ○大村洸平・大道雅之(拓大道短大)	24.十勝におけるニンニクの植付時期および種球(りん片)重が生育・収量に及ぼす影響 ○小田元太1・井尾 諭2・宮島彩夏2・米山真結2(1.十勝農改十勝北部、2.JA士幌町)
13:30	20.サツマイモの貯蔵期間が糖度・糊化開始温度に及ぼす影響 ○東希央理・大道雅之(拓大道短大)	25.露地ラッカセイにおけるトンネル被覆資材が収量・莢の成熟に及ぼす影響 ○千川明子・山黒彩菜・荒木健吾(留萌農改南留萌)
		<b>遺伝子発現・育種・利用</b> 座長 地子 立(道総研上川農試)
13:45	21.サツマイモ‘ムラサキマサリ’のセル苗移植による栽培の検討 ○高田和明1・佐藤正丞2(1.十勝農改十勝東部、2.JA豊頃町)	26.スイカの単為結実に関するRNA-seqを用いた遺伝子発現プロファイリング ○鈴鹿明広1・杉山慶太2・志村華子1・実山 豊1・鈴木 卓1(1.北大院農、2.農研機構北農研)
	<b>ヤマノイモ</b> 座長 菅原章人(道総研原環セ駐在)	
14:00	22.ナガイモのマルチング栽培が根茎発達に及ぼす影響 ○小澤 徹・今野弘規・斎藤稜馬(網走農改美幌)	27.イチゴ‘ゆきらら’の定植期および苗質が生育・収量に及ぼす影響(第2報)累年成績と秋保温の検討 ○木村文彦・柏谷太亮・福川英司(道総研花野菜技セ)
14:15	23.ソクネイモの規格内収量向上に向けた技術の検討～ウイルス病対策の検討～ ○若林杏弥1・高田和明1・小西晴香1・佐藤尚典2・奥 康平3(1.十勝農改十勝東部、2.ホクレン帯広支所、3.JA十勝高島)	28.スイートコーン‘味来90’の棚持ち性等に関する評価 芹澤直人・内藤洋太・吉田慎一・○前川 健二郎(ホクレン農総研)

注) ○印は演者を示します。発表時間は1課題当たり15分(発表12分、質疑3分)です。

発表開始後、10分で1鈴、12分で2鈴、15分で3鈴を鳴らしますので、演者は参考にして下さい。

演者の許可なく講演内容のカメラ・ビデオ等による撮影は禁止します。

※演者の方は、一つ前の発表が始まる前までに、各講演会場前方のPC係に発表スライドの入ったCD-ROMを提出ください  
 ※会報原稿作成時の課題番号は、上記プログラムに記載した通し番号をお使いください  
 ※第二会場(S21講義室)前の総合受付にて年会費の納入が出来ます。ご活用ください